

◆次 第：①開会、②議事、③その他

◆議 事：①基本構想（部会案）について

◆審議概要：

①基本構想（部会案）について

【まちづくりの視点】

- （3）、「○」2つ目、「子育て世代も」にしてはどうかという市民ワークショップの意見が反映されていないのはなぜか。
 - 「特に」という単語を入れて、趣旨を反映した。
 - 「子育て世代も」と「特に子育て世代が」では意味合いが変わる。
 - 人口減少と少子化の課題がある。「特に子育て世代が」が良いのではないか。
 - ここは、「未来につなげる」というまちづくりの視点の部分。特に若い方々に居住していただけるようにという願いであるので、「特に子育て世代が」が良いのではないか。
 - 「特に」という単語を入れることで、子育て世代だけではないということも表現できる。
- （3）、「○」2つ目、「人口減少・少子高齢化の進展」を「人口減少・少子高齢化の進行」にしてはどうか。「進展」だと、発展するという意味合いが強い。

【将来都市構造の基本的な考え方】

- 北部地域について、「地域活性化を図る」とは、どのようなことを意味しているのか。
 - 例えば、新名神高速道路のサービスエリアやスマート・インターチェンジを起爆剤とした地域の活性化などが考えられる。
 - 西谷の特徴を生かしながら、農業のIT化・企業化などによる活性化ができないか。
 - 宝塚市は都市部と農村部が共存しており、豊かな環境にある。都市部との関係の中で、西谷を生かすという視点を持つことも期待する。

【めざすまちの姿】

<共通>

- 「～になっている。」というような表現で統一されているが、読む人が既に今そうなっていると勘違いしないか。10年後までにそうなるために色々取組をしないといけないということを市民に伝えないといけないのではないか。
 - ここは、基本構想であり、ビジョンを示す部分。具体的なものは、基本計画や実施計画になる。
- 現実的なビジョンにしていく必要がある。
 - 基本計画を審議した後に、改めて、基本構想について審議いただく。
- レイアウトについて、下から「タカラボ提言書」→「現状認識」→「めざすまちの姿」となっており、未来→現在→未来となっているのが思考の順番として混乱を招く気がする。工夫が必要ではないか。

→「タカラボの提言書」は分析に基づかず、メンバーの想いを記載している。タカラボの想いときちんとした分析に基づいた「現状認識」を取り入れながらできたものが一番上の「めざすまちの姿」になっていると理解している。

- 「『地域ごとのまちづくり計画』の地域（まち）の将来像と整合を図り」の部分の文章のつながりが良くないので、すっきりとした文章にした方が良い。
- まちづくり協議会の一員であることを認識していない市民が多い中、地域ごとのまちづくり計画を策定し、進めていくというのは無理があると思う。
 - 大部分の地域では、多くの住民が関わって計画を策定し、それを広めようとしている。
 - 地域の計画づくりは、実態が充実したところから順次作成していく方法と、全地域が一律で作成する方法の2通りある。宝塚市は後者である。どちらも一長一短ある。それが駄目というのではなく、足りない部分を是正する手立てを考えていくことが重要である。

<安全・都市基盤>

- 「○」1つ目、「命や生活に関わる危機に備え」について、市民、行政など、みんなで守るということ表現してはどうか。
 - 「○」2つ目で「市民と行政がともに備え・・・」としており、連携の気持ちを込めてはいる。
- 「○」3つ目、「危機管理・防災・消防」の施策に、「広域」という言葉を入れられないか。
 - 細かく書けば書くほど読みたくなる計画になる。読みやすいものの方が良い。
 - 基本計画の中で、「広域」についてうたっていくことを考えている。
- 「○」9つ目、「河川・水辺空間」の施策に土砂災害対策が入っているが、河川に関連する土砂災害対策に限定されるように見えるので、施策名称について検討いただきたい。
- 「○」10つ目、「安全でおいしい水が安定して供給され」とあるが、おいしいというのは個人の味覚に影響されるので、「いつでも衛生的で安全なお水が飲める」としてはどうか。
 - 「安全」という単語の中に衛生的という意味合いが包含されている。
 - 宝塚市は安全でおいしい水をめざすということであると思う。

<健康・福祉>

- 「○」2つ目、「保健、医療、福祉の連携が進み、…医療を受けられる環境となっている」を「保健、医療、福祉の連携が進み、在宅での生活がより豊かに送れる環境が整っている」のような表現にしてはどうか。保健、医療、福祉の連携が進み、医療を受けられるようになることが大事なのではない。
- 「○」4つ目、「困難を抱える人も」を削除してはどうか。限定せず、普遍的に書いた方が良い。
- 「○」4つ目、「全世代にわたり」とあるように、地域福祉は全世代を対象としているが、「児童福祉」が健康・福祉の分野ではなく、人権・子ども・教育の分野にある。健康・福祉の分野にも「児童福祉」が必要ではないか。
 - 施策体系の整理上、「児童福祉」を加えるのは難しい。ただし、「地域福祉」の施策を進める上では、当然、「児童福祉」も含めて考えていく必要があると考えている。
 - 組織の縦割りもあるので、その限界も見ながら、一度検討いただきたい。

- 「○」5つ目、「高齢者福祉」について、特に男性の社会参加を増やしていく必要があると思っている。男性について言及することができないか。
 - 課題ではあるものの、男性に絞ったような書き方をする必要はないのではないか。
 - ビジョンなので、あえて細かく性別による差異や課題の違いを出さなくても良いのではないか。

<人権・子ども・教育>

- 「○」2つ目、「また、子どもたちの意見がまちづくりに生かされている」とあるが、唐突感がある。「○」4つ目で、学校・家庭・地域のつながりの中で、子どもたちの意見も含めて一人ひとりが大切にされていく、というような表現にしてはどうか。
 - 「○」2つ目は、「児童福祉・青少年育成」の施策分野。「○」4つ目は、「学校教育」の施策分野である。記載する位置は今のままで良いのではないか。
 - 記載箇所はここで良いと思うが、まちづくりに興味を持たないと、まず意見を述べないと思うのでそのあたりの内容を前段に入れれば、唐突感もなくなるのではないか。
 - 行数の関係もあるので、工夫できるのであれば、工夫をお願いします。
- 現状認識の右上、「子育ての孤立感や負担感が高まっている中、発達課題等を抱えた子どもとその家庭への支援・・・」とあるが、支援の対象が限定的に見えてしまう。子育てをしている人全般的に孤立感や負担感が高まっている。
 - 親は、子どもの成長と発達への関心が高い。成長や発達への不安を持っている人ほど、孤立感や負担感が高まる傾向にあるので、キーワードとして記載したが、より良い表現ができないか検討する。

<その他>

- めざすまちの姿の内容の意図を最初に説明してもらう方が議論しやすかったと思う。